

20青建第86号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

青木村長 宮 原



「今後の道路行政についての意見・提案」の提出について（回答）

日頃より道路行政の推進、改良整備促進に特段のご高配を賜り感謝申し上げます。
過日、貴職よりご依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案」の提出について、青木村の現状・願い等、一筆啓上させていただきましたのでよろしくお計らいくださいますようお願い致します。別紙により回答しますので御査収ください。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県 青木村

1. 社会資本の増強を含めての生活の基盤である道路整備、特に地方の道路整備においては、地域の声が届く(反映される)道路整備計画の策定が必要です。
2. 高速道路や高規格道路ネットワークなど高速交通網から外れた地域において、これらを結び連携する既存の国道等を整備し、アクセス性を向上することにより地域の活性化が図られ、高速交通網の機能性・利便性が向上すると考える。(高規格道路など高速交通網をサポートする道路として位置づけ重点的に整備を促進すべきである)
3. 地方道路整備はまだまだ不十分であり、道路特定財源の配分にあっては地方に重点的に配分されたい。(特に三桁国道の整備に対し国はもっと財源の手当てを厚くするべきと考える)
4. 改良中の道路整備について、建設期間が長すぎるため効果が出ない。また、完成する時期が未定なため地域の道路計画や振興計画等が立てにくい。路線全体(基点から終点まで)の整備計画を一括して示したらどうか。
5. 道路整備計画をたてる場合に審議会・委員会・有識者といわれる少数委員の意見だけでなく、もっと広く関係市町村の首長・議会議長・経済団体の代表・住民代表などの地域の声が反映されるような仕組みを作してほしい。
6. 安全な道路を維持するための維持・管理予算が確保されるよう十分な予算措置をしてほしい。
7. 地方道路整備にあつて道路構造令で縛ることなく、地域が必要とする道路が整備できるよう要件を緩和してほしい。(限られた財源で必要最低限の整備をし無駄を省く)

②一1 地域の現状と抱える課題

長野県 青木村

○現状 長野県の東部中央に位置する定型的な中産間地農村にあって、村民の交通手段は道路を使った自動車しかなく、鉄道は走っていない。国道1路線、県道3路線が村内を通過しているが、いずれも隣接する市町村の病院や学校(高校等)、通勤、買い物、鉄道の駅、高速道路ICへのアクセスとして村民生活に欠かせない重要な道路となっている。特に国道143号は上田市と松本市を結ぶ主要幹線道路である。しかし、両地域を地形的に別ける峠付近は屈曲し狹隘で交通の難所となっており、特に冬期間は積雪・凍結により通行に支障が生じるなど安全な通行が困難な状況にある。また、青木トンネル・会吉トンネルともに古く狹隘であるためにバス・トラックの通行ができず、観光・経済物流の面でも大きな障害となっている。また、観光立村を目指す青木村では、平成18年に開設された道の駅「あおき」に併設したふるさと体験館・観光センター・農産物直売所・加工施設を観光拠点として村の観光振興と活性化を推進しようとしている。 【隣接地域の重要社会資本】 上田市:新幹線上田駅・上信越道上田菅平IC 松本市:松本空港・長野道松本IC 安曇野市:長野道豊科IC	○課題 地域住民の生活を守り、安心して暮らせる地域づくりと観光立村を目指す村の活性化を図ろうとする当村において、国道143号の改良(トンネル化整備)は最大の課題であり、住民の悲願である。 現在、青木峠の青木村側では新トンネル予定地までの約600mは改良計画があり、計画に沿って工事が進められている。また、松本市側(旧四賀村)は会吉地区まで完了しており、後はトンネル工事の残土使用で先線の工事を進める構想であると聞いております。また、用地については地元の協力体制は整っている状況にあります。 このトンネル整備による効果は、安全・安心な住民生活を支える機関総合病院等への(救急)医療体制の確立、産業経済の活性化、就労場所の広域化、観光ルートの開発、高速交通網(新幹線・松本空港・高速道路)の利用促進など大きな効果が期待できるものと考えています。さらに、高速交通網・高規格道路等による道路ネットワーク計画から外れた地域の道路を結ぶ役目をもつ主要幹線国道としての整備促進が重要であると考えます。 ＜道路ネットワークを結ぶ具体例案＞ 中部縦貫自動車道(松本市)・松本糸魚川連絡道路(安曇野市)＝国道143号＝上信越自動車道(上田市)・上信自動車道(東御市)
---	---

今後の道路行政についての意見・提案

様式③

②ー２ 地域の目指すべき将来像

長野県 青木村

青木村は古の文化と風光明媚な自然が美しい山村で、律令時代に古道「東山道」が村を縦貫していたことにより京（都）の文化をはじめ多くの情報もたらされ、蓄積されてきました。なかでも「国宝大法寺三重塔」は往時をしのばせる村の宝です。また、明治時代には長野県の整備計画「七道開削事業」の「第二路線」の位置付けで開道した現国道143号は、松本地域と上小（上田）地域を結ぶ「松本街道」として産業経済・文化の発展に大きく寄与し、村の繁栄・発展を支えてきました。これらの道（路）によって、人が定住し文化を育み住民の生活を豊かにし地域が発展してきました。しかし、現在では国道19号・長野自動車道（松本市側）と国道18号・上信越自動車道（上田市側）を結ぶ主要幹線道路であり、県の中核的な松本市地域と上田（上小）地域の産業・経済の発展と、都市と中山間地域の連携を図るための重要な路線でありながら両地域を地形的に分ける青木峠付近は急峻な地形により狭隘で屈曲した道路が未改良で、峠の青木トンネル・会吉トンネルは古く狭隘なため、バスやトラックなど大型車両の通行ができない交通の難所となっており、地域住民の生活や観光・物流などに大きな障害となっているうえに、地域の活性化、産業経済の発展を妨げています。

ところで、青木村では、安全安心な住みよい生活空間の構築、豊かな自然を生かした観光（体験・交流）を中心とした地域の活性化、ゆとりと希望に満ちた地域づくりなどを柱とした地域振興計画を策定し、救急医療体制の整備、少子高齢化に対応した安全安心な村づくりの推進、若者定住促進政策の推進、道の駅「あおき」、ふるさと体験館、観光センター・レストラン、農産物直売所・加工所を整備し、村の観光交流の拠点と位置づけ農業と観光が融合した交流型観光の振興推進などの村づくり・活性化を図っていかうとしています。

これらの村の活性化計画を推進するに当たっては、社会資本整備の基盤となる村道・県道など生活道路の安全性の向上を図り、生活道路であり基幹道路でもある国道143号の改良・トンネル化整備が必要不可欠です。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④-/-

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長野県 青木村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
1. 地域生活基盤の確保と地域振興・広域連携の促進	国道143号青木峠のトンネルの早期着工、改良促進。 (国道18号と国道19号を結ぶ主要基幹道路)	○期待する効果や評価等 安全性の向上・機能向上により 1. 救急医療体制が改善される 2. 観光振興と地域の活性化が図られる 3. 広域連携の促進による産業・経済の活性化と就労範囲の拡大が期待できる 4. 地域防災機能の強化が構築される 5. 高速交通網の利用促進が図られる (松本・上田それぞれの地域が持つ松本空港、新幹線上田駅、各高速道路の利便性が向上する)松本～東京間の時間短縮、新たな観光ルート構築に伴う観光振興・発展に寄与する。	○ その他 高速道路・高規格道路等を結ぶ(繋ぐ)基幹道路として貢献できる。 (岐阜～中部縦貫道・長野自動車道松本市側～上信越道・上信自動車道上田市側～関東・首都圏) 国道254号のバイパス機能を保有し地域間連携が促進・発展し、長野県の防災機能が充実・強化する

今後の道路行政についての意見・提案

様式④ ー2

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長野県 青木村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
2. 安全安心な地域づくりのための総合的な交通安全対策	【1】 国道143号(青木)歩道整備 (役場、小中学校、診療所、老人福祉センターなどが有る村中心部、小中学校指定通学路) 【2】 主要地方道丸子信州新線(下奈良本)歩道整備 (歩道未設置、小中学校指定通学路)	1. 小・中学校生の安全な通学路が確保される。 2. 高齢者をはじめ歩行者の安全が確保される。 3. 歩車道が分離され安心な暮らしを支える基盤が整備される(車の通行も容易になる)	安全確保のため早急な整備が必要であり、各年の少量予算配分でなく、短期集中的な投資を望む。 用地・補償についての地元協力体制は整っている。